

2023年度

第1四半期決算

期間：期間: 2022年10月1日～12月31日

2023年2月8日、ドイツ・ミュンヘン

2023年度も好調な滑り出し - 業績ガイダンスを上方修正

シーメンスAGのローランド・ブッシュ代表取締役社長兼CEOは、「インダストリアルビジネスで27億ユーロの利益を計上し、新年度のスタートとして過去最高の業績をあげることができました。当四半期における当事業の目覚ましい成長力は、当社が有する製品ラインの妥当性と当社の実行力に対するお客様の大きな信頼を改めて示すものです。また、質・量ともに優れた受注残と、チーム・シーメンス全体の強力な実行力があることにより、確信を持って2023年度の見通しを引き上げることができました」と述べています。

また、シーメンスAGのラルフ・P・トーマス取締役CFOは、「2023年度第1四半期も、2022年度からの好調な業績を切れ目なく持続することができました。特に、デジタルインダストリーズとスマートインフラストラクチャーは、トップラインとボトムラインの双方で優れた業績を達成しました。受注残高が充分にあり、重要な在庫については一時的かつ慎重に積み増したことにより、今後数四半期にわたるさらなる収益性の高い成長に向けて十分に準備が整いました。したがって、今般、2023年度の売上高および利益目標を上方修正することにしました」と述べています。

- 第1四半期の売上高は前年同期比10%増の181億ユーロ、受注高は非常に好調で売上高を大幅に上回る226億ユーロ。2022年度第1四半期対比では7%下回ったものの、この四半期はデジタルインダストリーズとモビリティ事業で異例な高水準の受注があった。受注高比率は1.25と好調に推移。
- 為替変動と製品ラインの影響を除いた前年同期比では、売上は8%増、受注は8%減。
- インダストリアルビジネスの利益は9%増の27億ユーロ、利益率は15.6%。スマートインフラストラクチャーとデジタルインダストリーズの大幅増益が牽引。
- 当期純利益は16億ユーロで、これに対応する基本的1株当たり利益（EPS）は1.87ユーロ、購入価格配分に関する会計処理前のEPS（PPA前のEPS）は2.08ユーロ。

SIEMENS

シーメンス

| (単位：100万ユーロ) | 第1四半期 | | 増減 (%) | |
|-------------------------------------|---------|--------|--------|------|
| | 2023年度 | 2022年度 | 実績 | 比較 |
| 受注 | 22,620 | 24,209 | (7)% | (8)% |
| 売上 | 18,070 | 16,497 | 10% | 8% |
| 利益 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス | 2,687 | 2,460 | 9% | |
| 内：退職手当 | (34) | (36) | | |
| 利益率 (Adjusted EBITA) インダストリービジネス | 15.6% | 15.7% | | |
| 退職手当を除く | 15.8% | 16.0% | | |
| 継続事業からの利益 | (1,644) | 1,812 | (9)% | |
| 内：退職手当 | (47) | (46) | | |
| 非継続事業からの利益 (税控除後) | (8) | (15) | 47% | |
| 純利益 | 1,636 | 1,796 | (9)% | |
| 基本1株あたり利益 (単位：ユーロ) | 1.87 | 2.05 | (9)% | |
| PPA前のEPS (単位：ユーロ) | 2.08 | 2.24 | (7)% | |
| フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業) | 86 | 1,095 | (92)% | |
| キャッシュ・コンバージョン・ レート | 0.05 | 0.61 | (92)% | |
| ROCE (継続事業と非継続事業) | 14.3% | 16.4% | | |

- スマートインフラストラクチャーでの2桁成長を始めとする非常に好調な受注状況。なお、2022年度第1四半期はデジタルインダストリーズとモビリティで異例な高水準の受注があった。
- スマートインフラストラクチャーとデジタルインダストリーズで2桁の増収を達成し、売上の高成長を継続。
- 受注残高は為替変動の影響による大幅減少にもかかわらず1,020億ユーロと好調を維持、短期サイクルビジネスの比率がさらに上昇。
- 為替変動の影響により、受注高は3%ポイント、売上高は4%ポイントそれぞれ伸び率が押し上げられた一方、製品ラインの影響により受注高および売上高の伸び率はそれぞれ1%ポイント目減りした。
- インダストリアルビジネスでは増益となった。これは、電化製品ビジネスが牽引するスマートインフラストラクチャーの大幅増益、およびオートメーション事業が牽引するデジタルインダストリーズの大幅増益によるもの。一方Siemens Healthineersは診断ビジネスを中心に大幅減益。
- インダストリアルビジネス以外の利益については、商用車事業の売却益1億ユーロが寄与、シーメンス・エネルギー・インベストメント社で2億ユーロの損失となり損失拡大、シーメンス・フィナンシャル・サービス社は債券事業の収益貢献が低下し税前利益が減少。なお、2022年第1四半期の純利益には、フルエンス・エナジー社（フルエンス）への出資について、同社の新規株式公開に伴う3億ユーロの利益を含む。
- フリーキャッシュフローの変動は、主にインダストリアルビジネスによるもので、2022年度第1四半期の14億ユーロという好調なフリーキャッシュフローに対し、当四半期では4億ユーロとなった。この減少は、在庫の積み増し、および顧客からの支払いタイミングによるもの。
- 2022年12月31日現在の年金引当金および類似債務は、年金資産の投資収益などにより18億ユーロに減少（2022年9月30日時点では23億ユーロ）。
- ROCEは主に当期純利益の減少により減少